

むさし野

No.27

事務局 〒350-0822 川越市山田912-7 石井方
電話 049-225-2466
E-mail:ishii.0525@r8.dion.ne.jp
ホームページ: <http://www.longview.jp/musashino/>



新年度を迎え 会長 石井 満

会員の皆様におかれましてはご健勝のこととご拝察申し上げます。会員の皆様のご理解、ご協力をいただき新年度を迎えられましたことを先ず喜んでおります。会員数も当然入退会員がありますが、お蔭様で50名を保ち、しかも会費納入者が90パーセントと言う現状に、

この「会」が会員に愛されているのだとの思いを強くしています。

昨年度の最大のイベントは総会もありましたが、やはり「第13回勉強会・煮ボウトウと深谷文化を探索する」だと思えます。一会員として参加させて頂き、会員の眼で見た感想は。「会員による企画に会員が参加して、会員が共に運営する」と言う理想に17名もの会員が参加をしたことです。そして、最後の一人ひとりの感想が、皆その日一日を会の仲間と楽しんだという満足感でありました。その感想に、この会が非常に成熟した大人の会であることを実感いたしました。この会が今以上に隆盛を極めるとは思いませんが、大切なのは今の有り方を如何に長続きさせることではないか、と言うのが率直な気持ちです。そのためには、「会員の為の会」を基本的理念に今後も運営の一役を担ってまいりたいと思えます。

最後に、6月23日（土）に予定されております「総会」に是非ご参加ください。きっと新しい発見があると思えます。総会で皆様方の身近な出来事を法政の同窓生とお話してください。束の間かもしれませんが、楽しい時間が持てると思えます。お待ちしております。

定期総会のお知らせ（詳細は次ページに）

2007（平成19）年度定期総会を会則第9条に基づき下記のとおり開催いたします。会員各位のご出席をいただきたくご案内いたします。

日時 2007年6月23日（土） 13：30～17：00（受付開始13時）
場所 さいたま市民会館「うらわ」505号室

前回より総会において会員の皆様の趣味や活動の形を展覧しております。陶芸、絵画、エッセイ、著書、写真、書、雑誌及び新聞に掲載されたご自分の記事や寄稿等々。展示される方は同封の葉書の「会員通信欄」に、作品展示希望として記載願います。また販売ご希望の方は価格も記載願います。当日は13時までにお越しください。

* お手数ですが、出欠を同封「葉書」にて6月12日（火）までにご連絡ください。

＜総会次第＞

第1部 総会次第 13:30～14:15

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 議長選出 (会長)
- 4 議事 第1号議案 2006年度活動報告について
第2号議案 2006年度収支決算及び会計監査報告について
第3号議案 2007年度活動方針について
第4号議案 2007年度予算について
その他
- 5 議長解任
- 6 閉会のことば

第2部 講演会 14:20～15:50

清水靖夫氏 (法政大学地理学会会長)

(写真撮影)

第3部 茶話会 16:00～17:00

役員の方は12:30 (総会1時間前) から役員会を行います

第1号議案 2006(平成18)年活動報告について

[2006年]

- 5月10日(水) 『法政むさし野会報』第24号の発行。
 - ・06年度「法政むさし野会」定期総会(日程、議案、講演会等)開催案内
 - ・会長挨拶・第11回研究発表会(アンチエイジング)の報告記事
 - ・会員名簿(06.4.15現在)を会員に配布(会報に同封)
- 6月24日(土) 『法政むさし野会』の定期総会を開催。於：さいたま市民会館「うらわ」
 - ・第1部：総会 提出5議案(05年度の活動報告、05年度決算及び会計監査報告、06年度活動方針案、06年度予算案、役員の変更及び顧問の指名)を可決・承認。出席者：18名
 - ・第2部：講演会 『大空にロマンを求めて』
講師：冒険家(熱気球) 神田道夫氏
 - ・第3部：茶話会 ※会場に会員の著書、絵画、写真、古文書、エッセーを展示
- 9月10日(日) 『法政むさし野会報』第25号の発行。
 - ・総会の報告 ・第12回会員による勉強会(裁判員制度問題)の開催案内
 - ・講演会の報告記事 ・総会出欠の葉書より会員の声(12件)
 - ・本会のホームページ開設案内 ・会員出版図書紹介1件
- 9月23日(土) 校友連合会主催「06年秋季『神宮の集い』対慶大1回戦」に参加。
於：明治神宮野球場 参加者4名。
- 10月21日(土) 第12回会員による勉強会『裁判員制度を考える』について、ディスカッション。終了後、役員会及び会運営等に関する意見交換を実施。
於：さいたま市民会館「うらわ」 参加者：13名

- 10月28日(土) 校友連合会主催「第14回 法政大学全国卒業生の集い『沖縄大会』」
於：那覇市「沖縄ハーバービューホテル」 参加者：3名
[2007年]
- 1月10日(水) 『法政むさし野会報』第26号の発行。
 - ・第12回会員勉強会(裁判員制度を考える)の報告記事
 - ・第13回会員勉強会(煮ボウトウ 深谷の文化を探索する)の開催案内
 - ・寄稿3件・弔辞(赤間鉄雄氏06.11逝去)
- 1月20日(土) 校友連合会主催「07オール法政 新年を祝う会」
於：帝国ホテル 参加者：12名
- 2月17日(土) 第13回会員による勉強会『煮ボウトウ 深谷の文化を探索する』を開催。
 - ・昼食(煮ボウトウの由来等を地元研究会長から拝聴)後、深谷の文化を探索
参加者：17名 ※渋沢栄一記念館にて感想・意見等懇談を実施後、解散
- 3月11日(日) 『法政むさし野会』の役員会を開催。 於：さいたま市民会館「うらわ」
 - ・07年度総会対応及び会報第27号の発行等について

第2号議案 2006(平成18)年度収支決算及び監査報告について

1 収支決算書

収入の部 自 2006(平成18)年4月1日 至 2007(平成19)年3月31日

科目	予算額	決算額	備考
繰越金	178,909	178,909	
会費	98,000	82,000	41名、複数年度納入含
雑収入	0	42,832	寄付、勉強会会費
合計	276,909	303,741	

支出の部 自 2006(平成18)年4月1日 至 2007(平成19)年3月31日

科目	予算額	決算額	備考
会場費	20,000	17,040	勉強会会場費、茶菓代
通信費	50,000	32,020	
総会費	60,000	45,509	講師謝礼
印刷費	30,000	19,910	
事務費	20,000	9,977	ゴム印等
勉強会講師代	6,000	10,000	勉強会講師資料代等
予備費	90,909	18,017	繰越金含
次年度繰越	0	151,268	
合計	276,909	303,741	

2 会計監査報告

法政むさし野会 会長 石井 満殿

法政むさし野会の平成18年度(平成18年4月1日～平成19年3月31日)収支計算書及び
 附属書類について、平成19年4月5日に監査を行った結果、何れも会則に従い会計処理は
 適正に実施されていることを認めます。

平成19年4月5日

会計監査 鹿野 幸作 ㊞
 会計監査 小林 薫 ㊞

第3号議案 2007(平成19)年度活動方針(案)について

本会の目的を達成するため、昨年度同様、会報「むさし野」の発行と「会員による研究発表会・歴史文化施設見学会」の開催を主活動とする他、皆様のご協力の下、入会勧誘活動を展開いたします。

また、卒業生として、母校法政大学、法政大学校友連合会及び学部同窓会・地域支部等の行う諸事業に参加いただけるよう情報の提供等に努めることといたします。

1. 定期総会の開催 06年6月23日(土)13時30分～17時
於：さいたま市民会館「うらわ」
2. 役員会の開催 定例会を年3回、その他必要に応じて適宜開催
3. 会報の発行 年3回(5・9・1月に発行)
4. 研究発表会の開催 年2回(10月・2月に開催・終了後「懇話会」を開催)
5. 講演会の開催 定期総会開催時に実施
演題：地図から地域の歴史を読んでみる
講師：清水靖夫氏(法政大学地理学会会長)
(90分を予定・終了後「茶話会」を開催)
6. 法政大学交友連合会主催事業への参加
①東京6大学野球観戦(「神宮の集い」春・秋季リーグ戦)
②第15回法政大学全国卒業生の集い「大阪大会」07年10月5日～7日
③08年「オール法政・新年を祝う会」(日時・場所未定)
④その他 ラグビー、アメリカンフットボール、箱根駅伝などの応援
会員の紹介による勧誘活動を中心に「通教部埼玉県支部」、「大学通教部学務課」、「オレンジネット交友課」とも連携を図る。
7. 新規会員勧誘
8. その他 ホームページの充実。会員名簿の配布、連絡通報体制の整備「電子メール・FAX(登録)による連絡等」

第4号議案 2007(平成19)年度収支予算について

収入の部 自 2007(平成19)年4月1日 至 2008(平成20)年3月31日

科目	予算額	決算額	備考
繰越金	151,268	178,909	
会費	82,000	82,000	41名
雑収入	467,32	42,832	
合計	280,000	303,741	

支出の部 自 2006(平成18)年4月1日 至 2007(平成19)年3月31日

科目	予算額	決算額	備考
会場費	20,000	17,040	勉強会会場費、茶菓代
通信費	50,000	32,020	
総会費	50,000	45,509	講師謝礼・総会会場費等
印刷費	30,000	19,910	
事務費	20,000	9,977	
勉強会講師代	10,000	10,000	
予備費	100,000	169,285	繰越金含む
合計	280,000	303,741	

2007(平成19)年度会費お振込みのご案内

同封の振込用紙にて、新年度会費(2000円)のお振込みをお願いいたします。

第13回勉強会「深谷の煮ボウトウと文化を訪ねて」



桃木 良子 (さいたま市)

第13回勉強会「深谷の煮ボウトウと文化を訪ねて」(2007年2月17日)で、今回訪れた場所は以下の通りでした。

- ① 深谷商業高校記念館(内田顧問の母校)
- ② 日本煉瓦製造株
- ③ プレート・ガーター橋(ブリッジパーク)
- ④ 誠心堂・清風亭
- ⑤ 洪沢栄一生家
- ⑥ 洪沢栄一記念館

■煮ぼうとうの話しをきく 上記予定表により青木さん安藤さんの車と小林さん運転のレンタカーに17名が分乗させて頂き「虎ひげ」という店で昼食。「武州煮ボウトウ研究会」小林仲治会長さんの熱のこもったお話を聞く。地元の熱意が感じられた。

■深谷商業高校記 深谷商業高は当会内田顧問(前会長)の母校で、その校記念館は大正11年築の木造二層樓の元校舎。校舎前の深々とした植栽にも伝統が忍ばれた。

■日本煉瓦製造株 この日昼前に深谷駅に着き東京駅そっくりの煉瓦作りの立派な駅舎に驚いた。「むさし野」26号に解説のある洪沢栄一は、この辺りが瓦の産地であった事から煉瓦も作れると工場を作らせ各地に煉瓦作りの建物が出来た。東京駅、日銀旧館、碓氷橋梁他多くが今も現存する。しかしこの工場は昨年6月に閉じられた。この工場の東に美術館のような大きな煉瓦作りの建物があり、それがなんと下水道処理工場と知りさすが煉瓦の町と感心した。

■プレート・ガーター橋(ブリッジパーク) 煉瓦を工場より駅に運ぶ線路が敷かれていた。川に架けられた橋が日本最古のものとして今は、はずされ郊外の公園に置かれている。

■誠心堂・清風亭 誠心堂は栄一喜寿記念、清風亭は栄一の後を継いだ第一銀行二代目頭取佐々木氏の古希記念に世田谷に建てられたものを移築した。二棟とも大正時代の風格のある建物である。

■洪沢栄一生家 栄一生家は妹が後を継ぎ夫と共に守った。明治26年火事にあったが同28年に再建され栄一の部屋も作られ栄一も時には立ち寄ったと言う。(次頁下へ)



(上)「煮ぼうとう」の話しを聴く
(下) 深谷商業記念館で



洪沢栄一生家の正面にある門の前で

「ケアマネ」は介護保険の先達 よい人・よい事業所を探そう



武居仁子（高崎市）

我が家は107歳の父と白寿（99歳）の母、そして75歳の私の三人暮らし。両親の熱望は最後まで家に留まること。私も同感なので家で面倒を見ている。父母の介護保険を目一杯使っても、三度の食事の支度と世話がやっとならぬ、身の周りのことや家事はヘルパーに頼んでいる。それでも手が足りない状態である。毎月の支払は私の一ヶ月分の年金では足りないのが現状である。という訳でこの保険について言いたいことは多いが、今回はケアマネージャー（ケアマネ）と私の間のことだけを記してみた。

一昨年の大晦日までは両親ともこれと言う悪い所は無く平穩無事の日々だったが、去年の元旦の夜から病氣騒ぎが始まった。3時ころ、ふと父の顔を見に行ったら赤いので、熱を計ったら7度4分だった。めったに無いことだが元気なので気にもしなかった。夜再び計ると、7度8分、それで不安になり家庭医に電話したら、「肺炎の恐れがあるので直ぐに入院して手当てせよ」との事。驚き慌て、絶対入院しないという父を強引に救急車に乗せてしまった。診察の結果、肺炎と分かり、即入院。理由も解らず無理やり連れてこられ、酸素マスク、点滴、体の拘束等々。父にとっては入院はもとより、全てが始めてのことばかり。挙句の果てに一人置いてきぼりにされたのでパニックになってしまった。

16日間の入院で病氣は治ったものの、心身ともに惚け、体も動かなくなってしまう。蒲団では世話がしづらいのでベットに替えたいが、急の事で、その求め方も解らず、ケアマネに尋ねた。ケアマネは直ぐに来て、状況確認し業者に連絡し、同時にヘルパーの来る日数を増やす手配を私の知らぬ間にし、看病の体制を整えてくれた。この時から、ケアマネとの付き合いが密になってきた。少しずつ父が良くなりほっとした時、今度は心臓と肝臓が悪くなると言



渋沢栄一記念館で説明を聞く

■**渋沢栄一記念館** 栄一記念館は生家に近く筑波、赤城、榛名などの山々が見渡せる場所に建ち栄一の大きな像がどんと立つ。栄一は幕府に仕えた時、徳川慶喜の弟昭武についてパリ世界博を視察した。栄一はヨーロッパに一年滞在し西欧社会の進んだ状態を知り感銘を受ける。館内は多くの資料が有った。小柄でありながら超人的な仕事をなした栄一の偉大さを改めて知らされた。彼の識見の広さ未来への展望は日本の経済への貢

献だけでなく教育、医学、慈善活動、国際親善にも及ぶ。栄一は幼い頃より学んだ論語の精神を基本とし利益追求だけでない「道徳経済合一」を以て、関わった事業は500に余るといわれる。

以上、地元の青木さんのとても丁寧な時間割表と説明、安藤さん、小林さんにお世話になり、筑井さんらの先導で速やかに移動でき無事有意義に過ごせ皆さんに感謝の一日であった。

栄一の偉業生家の梅盛り

うおまけが付いた。それでも、何とかものも食べれるので、穏やかに過ごしてきた。7月27日、朝食は何ともなく摂ったのに、昼食時に少し戻した。慌てて医師に連絡し、指示に従い病院で検査を受けた結果、膵臓が悪く重態とのこと。ケアマネに連絡したら病院に駆けつけてくれ、医師に病状を聞き、私の留守中の母を見守るヘルパーの配置も手配してくれた。恐れていた病状も峠を越した矢先、突然盆になるので直ぐ退院と言われた。理由は「盆は市中の病院のほとんどが盆休みをするので、急患がここに集中する。ここは急患病院だからそれを断れない。だからそれ以外は駄目」と。ケアマネにこの話を伝えたら直ぐ病院にきてくれ二人で一緒に看護師長に会った。「父は家以外のところへは一切行かないので、娘がヘルパーの手を借りて家で見ているのが、ヘルパーも盆は休む。娘一人では父だけでも看られないのに母もいる。今帰されたらどうする事も出来ないから、他の部屋でも病棟でもいいので、盆の3日間だけでも」と懇願したが駄目だった。でもケアマネと一緒にいき、粘り強く交渉してくれたのは心強かった。私一人ではとても太刀打ちできなかった。ケアマネが直ぐに事務所に帰り、勤務時間も気にせずヘルパー確保に奔走してくれたお陰でヘルパーが見つかりやっと退院できた。

昨年11月末に、父がまた肺炎になり入院したが数日でよくなった。明日退院と言う日に、私がひどい頻脈になり父の退院は無理となった。ケアマネは直ぐに、我が家に関係する事業所の責任者を集めて今後の事を協議して、父の退院を延ばすこと。私が夜休めるように夜間のオムツ替えをヘルパーに頼むことにした。が、夜のオムツ交換の出来るところはどこも満員で、ケアマネが足を棒にしてやっとのこと確保してくれた。一方、退院できるので大喜びの父に、それがのびた理由を看護師がハッキリ言ったので、落胆したのだろ。翌日行って驚いた、素人目にも末期の感じだった。「病は気から」とはこのことだ。医師に「連れ帰り、本人の願いとおりに家で看取りたい」と言うと、医師は「もう何も判らないのだから無駄、途中で死ぬ」と。だが、強引に押し切って連れ帰った。すると、快復しだした。これならお正月もと誰もが希望を持った。風邪には家族に出入りの人々も皆細心の注意をしていたのに、父が暮れの29日ノロウイルスに罹った。昼食も機嫌よく済ませたのに、3時頃急に下痢が始まり止まらなくなった。ヘルパーは6時半まで。その後一人では手に負えないので、ケアマネにヘルパーの追加を頼み医師にも電話した。ケアマネは時間外だが飛んできて、直ぐにヘルパーの手配と看護師に連絡をした。医師も見え脱水がひどいので一刻も早く入院をとった。私が慌てて入院の用意をしているとケアマネは今夜のオムツ交換、明日からのヘルパーの派遣の中止を各事業所に連絡するなど、私の気づかぬことを全てしてくれた。

その間に他の二人も見え、テキパキと手伝ってくれたので短時間で入院できた。二人とも超手がかかるので、夜の見守りと食事の世話を要請され、息つく間もない10日間の病院通いで疲れ切ってしまった。ケアマネは、その間私の健康を気遣い連絡を密にしているいろいろと配慮してくれた。お陰で何とか看病ができ両親とも生還できた。支えてく下さった方々に奇跡だと祝福され深謝しつつ新年を迎えることができた。

ケアマネに依頼するために

昨年末の父の入院がきっかけでケアマネがだんだんと身近になった。同時に仕事の内容も解り、また、その重要さも身に沁みだ。介護保険はケアマネ次第で天国と地獄というのが、正にそうである。ここに私のケアマネを箇条書きで紹介し、係わり方の一端を記した。

○利用者の立場に立って話を良く聞きそれに最良の方法をとる。

総会の記念講演 『地図から地域の歴史を讀んでみる』

清水靖夫氏（法政大学地理学会会長）

日時：2007（平成19）年 6月23日（土） 14：00～17：00

場所：さいたま市民会館うらわ 505号室

明治から現代の地在の地図を比べて変化から歴史を考える。教材の地図を使いながら検証してみる。教授は30年間に渡り通教で地理学特講地図学を担任されました。また、学部では教職課程地理学関係専門の地図学を担任されました。会員の方々のなかには受講された方も多くいらっしゃると思います。是非ご出席ください。

- 本人の事だけでなく、その家族の生活全般に目を向けている（私の健康とか経済面のこと）。
- 手のかかる面倒な事でも労を厭わず、急用の時は時間外でも直ぐに対応する。
- 用件を頼むと来てくれ、引き受けた事の成り行きは電話で知らせ、決定するときは、必ず私の意志を確認する。
- 月の利用計画表を作る時は、介護保険の費用内で納まるよう細心の注意を払って作り、その後も何回か点検をしている。

私のケアマネとの出会いは幸運だったと深謝している。ケアマネとしての資質が具っており、その上看護師なので手当の仕方なども沢山教えられたからこそ、度々の危機からも抜けられたのである。これから介護保険を使う人は自分のニーズに適い相性も合うケアマネを手間を惜しまず探すこと。この保険の使い勝手の良し悪しはケアマネ次第である。又、情報を沢山持っている事も重要である。

最後にケアマネに対する私の持論を記す。それは、ケアマネは、独立を条件とすべきだと言う事である。現状のように、ほんの少数の人以外は、何らかの組織に属しては、それに制約されて良心的な人は悩み、一方では不必要なプランを作ったり、其のプランを利用者に勧めたりする者も出て公平な運用はできないと思う。同時に国は、資格更新時には、毎年何日かの研修を受ける事、その際に文学や芸術など人文系方面の事も学び、感性を磨かせ、品格のある教養豊かな人間を育てる努力、論文を課して人物評価もすべきである。

利用者の我々も国や行政に任せず。不都合や矛盾でも、自分達で出来ることはやり、実績を積み重ねて行政を動かさなければ、何時まで経ってもこの制度は良くならないと思っている。「有って良かった」という保険にする為に皆で、希望を持って努力を続けたいと願う今日この頃である。

〈報告〉

- 会員の異動（07年1～4月）
 - ・ 退会：渡辺 譲さん

◆あしがき◆

四月に入ったと思ったら、もうすぐ五月。「光陰矢の如し」を実感しています。今、奥の細道を旅しておりますが、千二百年前の出来事が語り継がれ、大事にされているのを拝見しますと、人の世の哀れ、代々守った人の情け、人生の短さを思い知ります。（鳥海記）